

メテイアの

【インターネット編】

インターネットの可能性を展望

A black and white photograph of a man in a tuxedo standing next to a giraffe statue. The man is looking directly at the camera with a slight smile. The giraffe statue is positioned to his left, its neck curving over his shoulder. The background is dark and out of focus.

中村伊知哉。1961年生まれ。京大経済学部卒。ロックバンド「少年ナイフ」のディレクターを経て郵政省入省。98年の退官後は渡米、MITメディアラボ客員教授などを歴任。現在は、融合研究所代理理事などを務め、慶應大学メディアデザイン研究科教授。著書に『デジタルサイネージ革命』など。

うな進歩によって終わる。また、中村教授は未知数ながら、Amicoという地上デジタル放送の雑誌で、新聞記事を貰われるなどして、する実験も計画している。この方法が普及し、若者が雑誌・新聞も良いと思えば回帰もあるうものではないかという。

「日本のユーザーは面白く、嵌じ」と中村教授は語る。ここ数年新しい生み出されたものはグーケル、ニコニコ動画などすべてユーザー主体のものだった。これからもその傾向は続くと考えられるが、そこに日本のチャンスがある。日本のユーチャーは自然と携帯電話などの端末の新しい

中村教諭は「もうやべり ターネットが普及したところだ、具体的なインターネットの在り方を見えるのは10年後でしょう」と見解を述べた。実際のところ現役ネット上の商取引は一歩も二歩も進んでいた。兆田と小売流通企画室の一郎(じろう)が「確かに、アダマ農業会員が曲がり角の今、将来インターネットが主軸となり、メディア高士の境地がなくなるのは間違いない。問題はいかにうまく利用していくかだらう。

廣應塾生新聞

第451号
(2010年1月8日)

② IT業界特集

太田釋